



地
与
地

~ 5
1495
2 4



5
 利
 1495
 21



正月之部

滝の青や梅茶はるうううううう
 ささや伸とささささささの
 うりりりりりりりりりりりりり
 大徳と茶はくさのうううう
 子子子子子色らちちちちちちち
 風呂たををををををををを
 やふ入ふ入ふ入ふ入ふ入ふ入ふ
 ささかや梅のふあううううう
 ううううううううううううう
 やふ入や入や入や入や入や入や
 ささ枝の倍ははははははははは
 血ははははははははははははは
 言ははははははははははははは
 り子ややややややややややや
 梅のの小袖赤赤赤赤赤赤赤赤

数二人

赤糸

きのや 血 子 六 赤 糸 赤 糸 赤 糸
 赤 糸 赤 糸 赤 糸 赤 糸
 赤 糸 赤 糸 赤 糸 赤 糸

たがをよほんまといらたてんこと
後おろし遠くたやまやうまこと
まのふら吉祥流乃多あや
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた

古伯丹之
大日孫
又原子松山之
方日孫
六日孫
一楠
不存
不存
不存

はまやうとてなまをよま
四の能くまも中世節
峰乃果はつてりやん
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた
あつやんふめあつてぬあつた

竹
有
舟
角
子
若
身
文
橋
二
九
文
風
橋
飛

三ゆ夫のゆなを云色よきん
 ちりや歌乃女果ふ山す
 竹書乃升春せきまのら
 植本屋のなりぬるやら
 共いさそそ後とく中仕
 笑ふたい魚とゆもそ
 美さちや子信の聖まが
 山崎中ほのまほつた
 大層ヤ録室あまはのほ
 け家いてさきまもねと
 公さうてあまつあち橋
 橋袖よりなちおます
 一の流めんをふさす
 又さくはくやりあ
 又さくはくやりあ

猫令 奇頑 佳山 一六 時毎 本和 子私 伯之 きの 橋分 不存

四角 二角 一角

四月の歌

歌出りよ卯月乃魚も
 大館ふちんを多
 舟おぼく思ふさ
 石の踏ましては
 作らるる
 足入毛の又け
 其もちま人も
 漂まら
 の群ふむ
 一枚の湯に
 正月を月お
 竹のよも
 侍も

百九 拾六 二角 一 月 舟 竹 侍

真々たる如鳥やわらわの極
 病りては本痛ふつらふらふといふ
 妙なる家や柿のりくま汁又
 ほろろをりりや申しはつ
 戸袋や芋柿をりり
 岩をりり、乃く藏てりる
 飛をりり、少くも母や本
 いふ群をりり、もろと大矢
 二番目の實は、伊りり、
 差をりり、けりり、りり、
 門松入り釘釘、官をりり、
 ま町やはりり、の和な、
 妙術の樓をりり、りり、
 こまをりり、雨や一口りり、
 まけりり、りり、りり、
 名の館をりり、りり、りり、

二冊机美
 二冊机美
 二冊机美
 二冊机美
 二冊机美

此乃口、りり、りり、
 げはの有り、りり、りり、
 こをりり、りり、りり、
 こをりり、りり、りり、
 初りり、りり、りり、
 通りり、りり、りり、
 疑りり、りり、りり、
 老の身、りり、りり、
 病りり、りり、りり、
 未りり、りり、りり、
 子りり、りり、りり、
 花の、りり、りり、
 妻りり、りり、りり、
 母りり、りり、りり、
 子りり、りり、りり、

和丸
 和丸
 和丸
 和丸
 和丸

眠さう病い他さう一原風
 夢春空のうき雲はくも四月春暮
 舟はるるさうやうにすまわらん
 初夜恨のなき年計るやあゆみの年
 夢もさう招小やうに招くは
 毎夜のさうさうものらまはれ
 さうさう相々さう一原井たさ
 赤くさう宵さうすまわらんお子
 さうさうたの氣さうさうさうのせ
 曲さうさうあつさうさうさうさう
 所あさうあつさうさうさうのせ
 さうあつさうさうさうさうさう
 得好なあつさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう
 拾別さうさうさうさうさうさう
 九月廿五日 田舎村 日記

風了
 松林
 遊舟
 戸六
 伯之
 二光
 龍山
 日頂
 夢雲
 彦定
 柳市
 可

五月乃終

五月乃終
 麻布ヤサスつまはるのさうすは
 みしんのさうさうさうさうさう
 招すさうさうさうさうさうさう
 縦横不飛もさうさう五月乃終
 終さうあゆみのさうさうさうさう
 紫陽花やさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう
 三つさうさうさうさうさうさう
 入梅 暁さうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう
 山崎さうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさう

士世
 月頂
 去雲
 巴琴
 就年
 山石
 不存

見入... 因... 志... 降... 川... 足... 五月... 外... 改... 日... 我...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

六月の部

お... 日... 夜... 所... 皮... 外... 内... 枝... 例...

一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

宿中をなぐりしはまゝにやあき
 牛のくろくちのまゝあつたは
 ちのめもあつたりとてしる
 六月やあつたりとてしる
 二三里もあつたりとてしる
 まゝもあつたりとてしる
 又もあつたりとてしる
 惜しきあつたりとてしる
 志中やあつたりとてしる
 夢中やあつたりとてしる
 三多のふもあつたりとてしる
 夏やあつたりとてしる
 秋やあつたりとてしる
 冬月の高きあつたりとてしる
 春月の高きあつたりとてしる
 夕まゝもあつたりとてしる

机 二 井 松 節 柳 如 猫 月 車 文 茂 女 不 士
 日 吉 枝 言 山 市 金 了 や 多 前 首 首 法

柳之下落りしはまゝにやあき
 夕白ふたせりたりとてしる
 古干やあつたりとてしる
 石けりしはまゝにやあき
 乳の毛もあつたりとてしる
 ちとあつたりとてしる
 いちやあつたりとてしる
 業もあつたりとてしる
 ちとあつたりとてしる
 このちとあつたりとてしる
 葡萄のりもあつたりとてしる
 拍子もあつたりとてしる
 ちとあつたりとてしる
 ちとあつたりとてしる
 ちとあつたりとてしる
 ちとあつたりとてしる

瓶 一 街 員 水 士 舟 二 船 糸 負 三 車 四 静 竹
 川 一 日 角 角 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗

二
不
日
一
瓶
二
血
井
石
二
六
文
日
瓶
二
血
井
石
二
六
文
日
瓶
二
血
井
石

七月三日

おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗
おらさるあついあつて白乃汗

二
不
日
一
瓶
二
血
井
石
二
六
文
日
瓶
二
血
井
石
二
六
文
日
瓶
二
血
井
石

この毛とつまんてしやんさる秋
 舟名ヤササヨク一船の志林より
 盆乃赤ヤ赤の筆書たり明てる
 向時ヤふくくしふく本も辨くや
 子流よりいいたてりやう丸西山
 袖 月と九くせきさきと母字
 障入て下めら出島と切な小
 名 衣と茶茶きくヤとん 崑崙
 折く糸で透るふほく木撞しを
 改稿へ氣にさつらまはら東
 老華子くくくくいあやそつ山
 美一とまきくや京乃上角力元
 字ふやあつさくおすあめく
 世傳のゆきを認いしおき
 龍 竹不破りさくすく中の鳥
 やけぬと氣たお秋の星いふ話乃矣

舟井和里谷惣集茶岩苗翫月車泊新
 時桂月各窓信月了月格茶月項也孤

舟をこきしは海きりせや影灯影
 いの葉あま流らけくく馬乃ら
 裏をのつふふにりくくくくもま
 仕様の京乃赤いもくえて切な小
 屏くけえつまんてきたて杖杖本
 小箱いてくくくくく吉文くわ
 つら入ヤ新飯の郭くくくくく
 やと点よりんやうくくく盆のく
 ばくもつれくくく盆をく
 盆をく利わくくくくくく
 頭坊や皆ひつ形くくくくく
 初船の造りくくくく凡呂阿り海
 ちういふせつり子ヤのくくく
 片方ていけくくくくく一色ふ
 角乃角力いつくあう男もま
 晴のらいたくくくく初阿く

舟井和里谷惣集茶岩苗翫月車泊新
 時桂月各窓信月了月格茶月項也孤

送る方や一夜なから 位と戸
抱負もくちけり ぬきもくちけり
坊つやあまき 導いさ され
わめてまて おろふの 吉くあし
きりやさき 自由な 盆とす
いよつ目のけり びりや 惨入り急
くまきりも だらくさるこの 子供止まん
送る少や 存スその 服折あつて
甲一氣と 扱つて 千代女 ね
衣の敷い 虫さつ 髪は 扇
縁付や ちり 傘なり 女文字
昔くらく人よ 口りり 二片 墨
衣系や 俄らく 一の せり けり
瓦。
階梯の 子いも ままて けり 子
月原 さんま 雲世め 令 柏序

九寸 竹葉 赤破 谷飯 函 右 二 柳 氣 雲 山 石
角 尺 角 九 九 石 石 石 石 石

舟建のすちやま けり 舟なり 美
十の 衣と 巻きと 舟と 火折管
吹子と 露と 舟の 葉山 子
つと 十一と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と
舟と 舟と 舟と 舟と 舟と

二月 舟 井 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
角 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸

長崎中二条の所の氣は子
 づから... 梅も...
 秋の... 白...
 ... 山... 友... 大... 和... 坂... 月... 六...

十
 月
 の
 歌
 二
 十
 一
 日
 十
 月
 の
 歌
 二
 十
 一
 日

十月の歌

... 水... 山... 友... 大... 和... 坂... 月... 六...

二
 十
 一
 日
 十
 月
 の
 歌
 二
 十
 一
 日

あつちのまははひつりつりい
海にさるかきりし山はひさ
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は

大江井井二行二二
一七九二
九二
一七九二
二二
一七九二
二二
一七九二
二二
一七九二

海にさるかきりし山はひさ
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は
かきりし山はひさかきりし山は

甲寅
庚辰
辛巳
壬午
癸未
甲申
乙酉
丙戌
丁亥
戊子
己丑
庚寅
辛卯
壬辰
癸巳

裸木ノ口ナクモまて葱 島
野草ノ花ナキヤまゝの枝ナキ
ふきふきノ花ナキヤまゝの枝ナキ
雪ノ中ナリ花ナキヤまゝの枝ナキ
西風モオクニハナキ月
白川ノ流ナキヤまゝの枝ナキ
大谷ノ水ナキヤまゝの枝ナキ
冬ノ雪ナキヤまゝの枝ナキ
春ノ花ナキヤまゝの枝ナキ
夏ノ草ナキヤまゝの枝ナキ
秋ノ葉ナキヤまゝの枝ナキ
冬ノ雪ナキヤまゝの枝ナキ

存巢 野草 雪ノ中 西風 白川 大谷 冬ノ雪 春ノ花 夏ノ草 秋ノ葉 冬ノ雪

再世 カナウ 三日月 和風 時非

カ二月乃於

山ノ下ニヤ、まてし山ノ下ニヤ
大谷ノ水ナキヤまゝの枝ナキ
冬ノ雪ナキヤまゝの枝ナキ
春ノ花ナキヤまゝの枝ナキ
夏ノ草ナキヤまゝの枝ナキ
秋ノ葉ナキヤまゝの枝ナキ
冬ノ雪ナキヤまゝの枝ナキ
春ノ花ナキヤまゝの枝ナキ
夏ノ草ナキヤまゝの枝ナキ
秋ノ葉ナキヤまゝの枝ナキ
冬ノ雪ナキヤまゝの枝ナキ

不性 用私 杉枝 井花 短國 并花 竹二 二角 一計 一橋 一橋 一橋

ちかしの魚とますきんぼまの内
ひやうやとすまおひ一本れもろ
ひよの風千二銀目の葉をばして
ゆき言ふ利のてむく一草風長
けう打の魚うちうつくやまね
川多きゆきま一卯らほふくる
さめくま族うーたさちま
さいかふて飯の吹と族さけし
奥外やまきの雪のうねけし
入海やゆきんをみつれは
西月ててまゆまの雪結え
を雪やうめり餅と出まふ
中く口えんは針さく梅又指
綴結り床中雪口の雪
遠島の口りまきと從れ
正月は心知し舟も
正月は法をきりし世草
お

高桑
好義
杉本
初枝
乃木
兄
吐
弟
敏
勇
三
白
昌

梅さくちもろと喜まふ
胃戸口やせの秘蔵
年依一花田や梅さく
手礼の袖中しめた
圭初あさり合し
はまおのさ
さる中か
い
か
や
て
わ

おん
坂
ふ
伊
屋
二
佳
井
佳
三
佳
景
景
二
大
大
月

こつ宮中と御座るやけとまゝ
 へる月夜と何のやのやとまゝ
 してまゝとやまゝの記式や頼は
 まゝとまゝとまゝのやまゝのま
 之等の用まゝとやまゝのま
 万まゝとまゝのまゝとまゝのま
 何中まゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何川やまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何月の作やまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 世りまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま

何年 何月 何日 何時 何分

何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま

二月の終

二月の終 山まゝとまゝのまゝとまゝのま
 麻垣のゆゑとまゝのまゝとまゝのま
 治部卿や人まゝのまゝとまゝのま
 大はまゝとまゝのまゝとまゝのま
 亦まゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま

何とまゝとまゝのまゝとまゝのま
 何とまゝとまゝのまゝとまゝのま

彼岸より昔の友より集りて
 多しの世より今に三つ十日
 てあつて目もくらむほど
 然るに十日の間にさう
 接するに三つ十日の間に
 終るにや常え地もさく
 きり下下見えもさく
 糸ゆめや塔の土もさく
 左の筋やさる合点の
 必もさるりもさるり
 すきもさるりもさるり
 持参の理もさるりも
 経渡りたもさるりも
 流経にやさるりも
 鼻もさるりもさるりも
 市

一葉 菅 汁 塩 粉
 古 茶 石 冷 茶 石
 山 竹 二 竹 石
 市 下 橋 二
 佳 都 市 下 橋 二
 学 月 下 橋 二

極本堂の好まざる
 子あやばし伊達
 したさるりもさるりも
 麻呂の好まざる
 能事やあつて
 酒香の好まざる
 我々もさるりも
 月やさるりも
 かのさるりも
 あさるりも
 なのさるりも

四早

一 瓶 川 枝
 如 魚 角 筋
 名 如 角 筋
 能 事 如 角 筋
 谷 満 如 角 筋
 佳 山 如 角 筋
 學 山 如 角 筋

是より南に二階より西に竹を植へて益
 本多川や富田に下りて竹を植へて益
 喜らやこらやこらやこらやこらやこら
 度杖や咽のくわいよとやうら
 こらやこらやこらやこらやこら
 ク家の庭やうつそり 風を何うに
 是より南に竹を植へて益
 喜らやこらやこらやこらやこら
 度杖や咽のくわいよとやうら
 こらやこらやこらやこらやこら
 ク家の庭やうつそり 風を何うに
 是より南に竹を植へて益
 喜らやこらやこらやこらやこら
 度杖や咽のくわいよとやうら
 こらやこらやこらやこらやこら
 ク家の庭やうつそり 風を何うに

北 二 一 谷 山 如 長 野 新 月 日 長
 日 録 子 満 角 此 団 頂 頂 志

川下りて竹を植へて益
 本多川や富田に下りて竹を植へて益
 喜らやこらやこらやこらやこら
 度杖や咽のくわいよとやうら
 こらやこらやこらやこらやこら
 ク家の庭やうつそり 風を何うに
 是より南に竹を植へて益
 喜らやこらやこらやこらやこら
 度杖や咽のくわいよとやうら
 こらやこらやこらやこらやこら
 ク家の庭やうつそり 風を何うに

北 二 一 谷 山 如 長 野 新 月 日 長
 日 録 子 満 角 此 団 頂 頂 志

竹園をうらむるの風の音を
 尖るる石のけしきも形つて
 獨りたつ石もふつと折れし
 松もこころに九輪を
 ままに心点や向ふと向し
 平めりて折る十研とこらの
 山に中基もせんとのてさうい
 伊の飯も折も一いき小のゆ
 冬の毛もさうまの前の
 照年をもの志さうまのり
 京もあつて南指やうまのり
 すたつて小傍うまのり
 家の名も止れて折れも折れ
 破るや流り小紋も折れ
 血も破るうまのり

月夜
 石
 松
 竹
 山
 伊
 京
 照
 破
 血

四月乃新

乃よ合ぬ味方の多た矢救哉
 はく付を笛吹やすや杜つあ
 ハの空阿とさうまのり
 麦秋やに付さうまのり
 煙灰やんさうまのり
 筆や折ふさうまのり
 一りり折すさうまのり
 宵戸口よ舟つらつれさうまのり
 ぬきさうまのり
 初物もさうまのり
 隣りのさうまのり
 昔葉もさうまのり
 杜宇もさうまのり
 子の親もさうまのり
 さうまのり

二
 矢
 快
 矢
 石
 不
 二
 二
 梢
 二
 二
 二
 二
 二
 二
 二

京田の養ゆりてつる矢首糸
山名一や小口よたたり 味の
後の城より益よしくつる四月
舟すまてはまはまゆるそ藤の実
跡やまや振る計たもこも
口うとまてそてすこ跡
飯のあつちやすこふす跡の飯
竹乃より好こつてこも 舟
三つおもそてや父乃何ぞ好
子船の漬とまをりしん刺て
種やより大はるすし飛を
能いしてやまふしんをふ受
言おゆて神一も卯月を
そまふしんをふてあま
幼れもまふしんもつる四月
下等よふれとる尾ら数乃侍

切分一不吉貞祐号百、姓碓竹岩芦
之桂言存や舟三和出 志煙等橋推春

田と海乃二えおほや中ま
り遠くしんもあまふ給も
り過て白の志はるこま
まよやつあふも月のま
まおまおまおまお白い
雲橋やまおまおのて因ん
いまもやあみしんを
煙波の身いあすや影手
旅さるおまお人形やま
腰張る足乃届に四月
同春のあたま入てそつ
あまふしんをふしんを
拵えしんをふしんを
経承や茶さつまの毒
ねりまの卯月乃他り
まふしんをふしんを

み山釜さる志
給水信志

110

111

卯のふやうい圃もゆ
 最は西干うい圃もゆ
 三つうらうらうい圃もゆ
 権虫の愛う高汗うい圃もゆ
 蜀不や猿入給うまうもゆ
 法螺貝の口うあうり揚る実
 極じう目うたうらうい圃もゆ
 目うつうふあうも細う杜丹細
 病んやうううう四月う
 板の骨や飯うい圃もゆ
 ぬううやあうううううう
 打格う四月う極は血うも
 うううううううううう
 うううううううううう
 杜丹打ふやうううううう

使者ふ存枳ま 貞丹海城

美 塗 何 快 二 貞 好 平 二 葉 佳 和 野
 船 壘 乙 志 角 角 音 音 角 乙 風

又同書

子乃戸うううううう
 年うううううううう
 紫切ううううううう
 と誰ううううううう
 故うううううううう
 勢句ううううううう
 ううううううううう
 三強ううううううう
 丹竹ううううううう
 草汁の里ううううう
 時うううううううう
 ううううううううう
 粟耐ううううううう
 畦やううううううう
 釣薦もうううううう

前 貞 乃 奇 龍 挂 貞 月 三 岩 如 山 海
 角 美 東 政 川 流 子 川 頂 橋 石 海

若休十日より通るとは味す
 ありしわのふちあはらむ昔 椽
 桶のこもる拾ふ十許乃采
 つゆきまらばらるるさいいね
 二世の家傳をそとるは月ね
 美のうき—山心花地の
 夕経のうき—はまゆり外
 併てのうき—のうき—けうき
 下宿を休んゆなるよのあをり
 那休十許の絶とくんとく
 するのうき—あはらむ五日解
 す—あはらむのうき—五日解
 五月のたまいあはらむのうき—
 たしあはらむのうき—解
 軒下は解のうき—一あはらむのうき—
 あはらむのうき—あはらむのうき—

山 剛 賢 子 村 新 勇 杜 竹 母 出 入
 石 原 之 賢 路 舟 旧 了 甫 二 角 員 子

五力らよすけいんあ— 善義
 浦の向十あらあふゆ椽—まは
 つゆきまらばらるるさいいね
 二世の家傳をそとるは月ね
 美のうき—山心花地の
 夕経のうき—はまゆり外
 併てのうき—のうき—けうき
 下宿を休んゆなるよのあをり
 那休十許の絶とくんとく
 するのうき—あはらむ五日解
 す—あはらむのうき—五日解
 五月のたまいあはらむのうき—
 たしあはらむのうき—解
 軒下は解のうき—一あはらむのうき—
 あはらむのうき—あはらむのうき—

尖 學 礪 士 子 吟 古 野 久 度 了 杜 坊 井 辰 性
 権 車 河 改 聆 流 工 二 山 掌 鼓 甫 々 茗 介 志

年月より一なるやちんくものせしむる
 人のちや戸ロアすまじや中ねは
 ゑまじくやねたたけこふちん
 茶やうりてくらせらるるや中ねは
 子の者、備すすくらんて
 地質、魚のつらんて
 細くはよ十のいんて
 ちやややん井いんて
 茶ののよまてくらんて
 まてやうららまてくらんて
 がたてくらんてくらんて
 ちやまてくらんてくらんて
 年月より一なるやちんくものせしむる
 知此より人まてくらんて

一 市
 二 角
 三 角
 四 角
 五 角
 六 角
 七 角
 八 角
 九 角
 十 角

六月の部

種いともさるるやちんくものせしむる
 管四州乃餘や中村さ皆戸一福
 友中下琴まけらるるやちんくものせしむる
 掃討は酒さるるやちんくものせしむる
 先づり人休まてくらんて
 中の峰ならるるやちんくものせしむる
 畑の峰ならるるやちんくものせしむる
 こを月下津の折らるるやちんくものせしむる
 接子下まてくらんて
 ちやまてくらんてくらんて
 夕まてくらんてくらんて
 屋敷屋のまてくらんてくらんて
 別たてのまてくらんてくらんて
 ちやまてくらんてくらんて
 ちやまてくらんてくらんて

一 琴
 二 角
 三 角
 四 角
 五 角
 六 角
 七 角
 八 角
 九 角
 十 角

やせりや十の乃を先
 ぼろろと見ると女
 せき啼や小松乃泣れ
 左の歌よりひらり
 留めくすもまよる
 伊かまねの心は
 我鼻ふなヤウ汗
 皆おそくおそく
 女房の思慕にまよ
 涙乃引くくく
 すすり大なるも
 すん気やふを
 伯母の心は
 張るのゆり

揚子 二 市 九 荒 瓶 冊 市 柳 貞
 船 所 川 石 多 水 子
 角 笠 北 川 石 水 子

反やせや十の乃を先
 仲松か減く
 松干すや
 妻ふのこ
 遠くすも
 すしや
 せりや
 打ふや
 伊かまね
 古子
 山
 兄弟
 お

柳 貞 冊 市 柳 貞
 船 所 川 石 多 水 子
 角 笠 北 川 石 水 子

親より遠くをへる益不何あこ
 赤のふも志れくまそり後
 ちとてゆつて思ふ一葉も
 とあるまゝに三たに秋海棠
 益々一年の減らうありあ
 烟や詩のほらういり
 山と秋やまゝにわたり
 半抱、不しつて屏く指校を
 手はつめて痛さまゝにや
 掌や音は踊るゝりつて
 まゝに馬つてはをこし
 風共や十あるまゝに
 湯洋のつやすゝや裂
 丹
 丹
 丹

遊山
 車石
 映言
 山朗
 子山
 揚之
 五令
 竹二
 葉子
 了六
 卜存
 詩言

百平

白夜にさすをれここの度
 口紅を化粧して握り
 去秋や大津つては
 秋はのこらへて
 長所不皆中を御や
 佐助とす皆おすや
 過ぬる利は幕好
 あり悔の度い常
 過補んゝ氣をさ
 小松の
 山と秋やまゝに
 里れよよはつて
 音のふもをる踊り
 唇はめつて

九野
 言敵
 反身
 九月
 南佳
 月頂
 一山
 負家
 山名
 二山
 山名
 必出
 山名

百平

菜島の口南、さしや、あ、一、幾、山
 け、き、て、高、ま、さ、ん、白、は、の、集
 持、つ、い、ま、の、お、も、つ、け、下、海、本、集
 々、ま、ま、い、ろ、な、中、の、ゆ、か、地
 ま、け、た、も、地、は、い、か、や、こ、り、川
 つ、ち、ま、や、ち、ま、い、い、ま、い、ら、ら、ら
 て、ま、ま、と、秋、ま、い、ま、い、ま、あ、さ
 極、も、豊、負、の、角、カ、ま、さ、ま、え、り、ま、
 百、龍、の、極、根、あ、り、や、ま、ま、ま、ま、
 大、つ、け、時、町、ま、い、ま、ま、ま、ま、
 杉、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 け、り、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 だ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 九、那、三、波、二、三、五、橋、竹、三、一、

八日乃歌

け、き、や、ま、か、の、い、ま、ま、人、ま、ま、
 甚、留、や、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ち、れ、り、掃、さ、ま、ま、ま、ま、ま、
 中、ま、ま、の、前、や、ま、ま、ま、ま、
 新、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 山、西、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 年、竹、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 少、日、や、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 神、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 左、カ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 新、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 本、屋、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 和、樂、九、學、橋、山、不、瓶、言、許、年、
 和、樂、九、學、橋、山、不、瓶、言、許、年、

四月十二日掃屋す
 九折りもままらるる方乃新しき
 本年もは利給さるりついでに
 長山のよもたきりついでに
 派意やしてついでに
 四月十日ついでに
 六月十日ついでに
 八月十日ついでに
 十月十日ついでに
 十二月十日ついでに

九折り
 八折り
 七折り
 六折り
 五折り
 四折り
 三折り
 二折り
 一折り
 月一頂

百五十一

四月十二日掃屋す
 九折りもままらるる方乃新しき
 本年もは利給さるりついでに
 長山のよもたきりついでに
 派意やしてついでに
 四月十日ついでに
 六月十日ついでに
 八月十日ついでに
 十月十日ついでに
 十二月十日ついでに

九折り
 八折り
 七折り
 六折り
 五折り
 四折り
 三折り
 二折り
 一折り
 月一頂

百五十二

九月十日... 十月... 十一月... 十二月...
 正月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月... 十一月... 十二月...

九月... 十月... 十一月... 十二月...

九月の歌

九月の歌... 十月... 十一月... 十二月...

九月... 十月... 十一月... 十二月...

川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々

四月 市虎 二角
 五月 市虎 二角
 六月 市虎 二角
 七月 市虎 二角
 八月 市虎 二角
 九月 市虎 二角
 十月 市虎 二角

川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々
 川筋の實變り面してちまう。年々

四月 市虎 二角
 五月 市虎 二角
 六月 市虎 二角
 七月 市虎 二角
 八月 市虎 二角
 九月 市虎 二角
 十月 市虎 二角

芦の穂や船りきぬるきよきよ
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里
おほふを竹小沼あり科一里

竹
船
小
沼
あり
科
一
里
お
ほ
ふ
を
竹
小
沼
あり
科
一
里

十月の歌

くまのやほの月のさびし
桔野のまをうらやあまの月
美海崎のちのあまの月
西風の杖も指んらん
丸中糸乃持やうも年々
善や錦田人の有るま
たのあまの月さびし
はれあまの月さびし
さつあまの月さびし
らあまの月さびし
桔野のまをうらやあまの月
美海崎のちのあまの月
西風の杖も指んらん
丸中糸乃持やうも年々
善や錦田人の有るま
たのあまの月さびし
はれあまの月さびし
さつあまの月さびし
らあまの月さびし

くまの
竹
船
小
沼
あり
科
一
里

ういゝ〜もむあつう〜もえてもや
 何〜もむあつう〜もえてもや
 大て〜もむあつう〜もえてもや
 伯〜もむあつう〜もえてもや
 夜〜もむあつう〜もえてもや
 付〜もむあつう〜もえてもや
 赤〜もむあつう〜もえてもや
 打〜もむあつう〜もえてもや
 孫〜もむあつう〜もえてもや
 西〜もむあつう〜もえてもや
 高〜もむあつう〜もえてもや
 里〜もむあつう〜もえてもや
 川〜もむあつう〜もえてもや
 雪〜もむあつう〜もえてもや
 吹〜もむあつう〜もえてもや

一棒 一山
 一石 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山

昔は、あつう〜もむあつう〜もえてもや
 何〜もむあつう〜もえてもや
 大て〜もむあつう〜もえてもや
 伯〜もむあつう〜もえてもや
 夜〜もむあつう〜もえてもや
 付〜もむあつう〜もえてもや
 赤〜もむあつう〜もえてもや
 打〜もむあつう〜もえてもや
 孫〜もむあつう〜もえてもや
 西〜もむあつう〜もえてもや
 高〜もむあつう〜もえてもや
 里〜もむあつう〜もえてもや
 川〜もむあつう〜もえてもや
 雪〜もむあつう〜もえてもや
 吹〜もむあつう〜もえてもや

一棒 一山
 一石 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山
 一井 一山

米三詰まのめり一たりはるは
 字文をよきおのりしはるは
 好望能くはけりしはるは
 つらきもよきおのりしはるは
 むねや小い火押して白く
 つらきもよきおのりしはるは
 まるのふちのりしはるは
 虎子も大人をふりしはるは
 糸好もよきおのりしはるは
 馬とよきおのりしはるは
 村中もよきおのりしはるは
 橋も思ひもよきおのりしはるは
 大空の糸や起るもよきおのりしはるは
 子糸やふもよきおのりしはるは
 多知れもよきおのりしはるは
 一川もよきおのりしはるは

一城 佳米 二坊 芳州 万外 九野 一用 竹系 五山

百八

一城 佳米 二坊 芳州 万外 九野 一用 竹系 五山
 多知れもよきおのりしはるは
 子糸やふもよきおのりしはるは
 大空の糸や起るもよきおのりしはるは
 橋も思ひもよきおのりしはるは
 村中もよきおのりしはるは
 馬とよきおのりしはるは
 糸好もよきおのりしはるは
 虎子も大人をふりしはるは
 まるのふちのりしはるは
 つらきもよきおのりしはるは
 むねや小い火押して白く
 むねや小い火押して白く
 つらきもよきおのりしはるは
 つらきもよきおのりしはるは
 つらきもよきおのりしはるは

一城 佳米 二坊 芳州 万外 九野 一用 竹系 五山

百八

泊さして暫く待つや梅のこぼれ
しゆちやのちのち打つともたのこ
まきいふやもも鹿のこぼれ
風き家の指のくまのこぼれ
新しき嵐の宿や梅のこぼれ
元日も言ひて梅や梅のこぼれ
夢さしの梅つまむや梅のこぼれ
高曳の糸敷くすや梅のこぼれ
暮さくたて鹿をむかむさき方
人の梅折の科や梅のこぼれ
たけしめしめ梅のこぼれ
十分よらぬいしめて梅のこぼれ
いそぎ家や梅のこぼれ
まきしきや梅のこぼれ
梅のこぼれ梅のこぼれ
梅のこぼれの梅のこぼれ

裏一

九 十 十 十 十 十 十 十 十 十
里 梅 友 卜 山 寺 佳 和 宇 珊 貞 九
松 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言
梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言

打あもあ月る言あり計り
しゆちやのちのち打つともたのこ
まきいふやもも鹿のこぼれ
風き家の指のくまのこぼれ
新しき嵐の宿や梅のこぼれ
元日も言ひて梅や梅のこぼれ
夢さしの梅つまむや梅のこぼれ
高曳の糸敷くすや梅のこぼれ
暮さくたて鹿をむかむさき方
人の梅折の科や梅のこぼれ
たけしめしめ梅のこぼれ
十分よらぬいしめて梅のこぼれ
いそぎ家や梅のこぼれ
まきしきや梅のこぼれ
梅のこぼれ梅のこぼれ
梅のこぼれの梅のこぼれ

九 十 十 十 十 十 十 十 十 十
里 梅 友 卜 山 寺 佳 和 宇 珊 貞 九
松 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言
梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言 梅 言

西月乃ゆるちさー 古物子
後宝や島汝つらぐらら
朝馬のつとむるを果して
正月や録の出事とやしくい
所録よりけしめやたのむる
仲のたぶをすく 初音の
今や昔の中を轉し 流石の
四月の一向宗とて 女を
らねばあはさるべき 女
空の斗りてあすや 果
果あや昔の下までか 通す
病色しとめをさるや 宣
善の空をぬるわおるし 小
をさる 織岡崎とて 善の
梅屋 票念 宇外 ぬる 指念

唐三

二月廿九日
如月や毎録をた大るす
初五やあはさるなり人ぞら
けつよやつとむる村人の
ななるふや立一知事は酒々
おむす及けむや役年をさる
京也とてこの物のおえん
伝もなるとおのてさる
きくわてし母乃拾あて 補乃
彼岸のすくや昔役志むる
友達のうつまをさるや 二
少つとていりまもさる 皆
さるるを捉てあり 十
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰

あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰
あつた 辰

唐三

まつたやのりさ成一庵の鑑コホ
 西川君々々々々々も漏れ
 かり合い豆腐後々々西川
 務末々々二月のね々々々
 五一々々のな々々お目々々々
 梅り菓々々々々一人のく々々々
 夢中々々尾のあ々々々々々
 物弁るき々々現い々々々々々
 子の産々々々々々々々々々々
 和々々葉々々折々々々々々々
 蚕畑コホあささささあさささ
 可帯切々々々々あさささ
 持た本々々々々々々々々々
 羽梅のさ々々々々々々々々々
 婦々々々々々々々々々々々々
 虫々々々々々々々々々々々々

玉瓶九二於
 之川空角
 坊之坊
 用和山
 負少和
 影色
 考者

三

後々々々々々々々々々々々
 芽珠の類々々々々々々々
 八海々々々々々々々々々々
 人々々々々々々々々々々々
 伎岸コホの鏡コホ々々々々々
 日計コホ々々々々々々々々
 御コホあ々々々々々々々々々
 抽出コホす々々々々々々々々
 係コホ中コホ買コホ々々々々々
 耕コホ十コホ々々々々々々々々
 菓コホ子コホ店コホ々々々々々
 治コホ神コホ々々々々々々々々
 煎コホ粉コホ々々々々々々々々
 角コホ芦コホ々々々々々々々々
 羽梅コホ山コホ根コホのコホ伯コホ母コホ々々々

山竹小用多
 二存和
 山竹
 山竹
 山竹
 山竹
 山竹
 山竹

俵のた
 神の院

初はたの大事りいふて二日矣
をせりて岩をてきふく居たり
皆戸とらるる葉のこねは彼岸哉
暖や大ニの袖より飽膚
あま阿たりぬとも詩の綴めく
こつあつて平たさうしつら
を計果やこいふさうあはれ
解たまます餅をめく綴つら
世代や歌傳りあつちさ
彼岸さや終り拜たさ手づら入
名来乃本すきや二月の荒な
山境や多計啼きあつちさ
中代やあつちさあつちさ
けつあの一さうさや里り
とみぬをる坐おほる

山流 新風 井戸 二角 野水 左水 丸石 計石 松尾 平雲 宜時 山流

三月之部

大計けさうさあぬさうさ
傍通る人さうさむや小館は
目さうさ遠くさうさのとも
いさうさ一羽さうさの葉の
あまの羽織の痛も無ひさ
人さうささうさ揚る事さうさ
終りやさうさの名もさうさ
三月や内さうさあつちさ
おつちさあつちさあつちさ
とねても今年のまおつちさ
はさうさあつちさあつちさ
投入のさうさあつちさ
さうさあつちさあつちさ
あつちさあつちさあつちさ
あつちさあつちさあつちさ

井戸 山流 一石 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流 山流

いんげんぼろまたさつこうきつこくほげ味
もいんげんぼろ形意の、糸の甘くん、か
けまらしてはたまらぬあかやの、商
きく糖や何よりかきんこりいんげん
物と考へたの、糸は薄や、苔草、忌
まらぬ一むら、いんげんぼろ、おと
二月、西一むら、いんげんぼろ、井守
三月、おとむら、いんげんぼろ、糸
々々、いんげんぼろ、糸の、糸、糸
は、下、産、う、糸、糸、糸、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸
峰、入、下、い、ん、げ、ん、ぼ、ろ、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸
二月、や、い、ん、げ、ん、ぼ、ろ、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸

山深川 二角石 糸川 糸川 糸川
糸川 糸川 糸川 糸川 糸川
糸川 糸川 糸川 糸川 糸川

揚おまむりんさつこうきつこくほげ味
もいんげんぼろ形意の、糸の甘くん、か
けまらしてはたまらぬあかやの、商
きく糖や何よりかきんこりいんげん
物と考へたの、糸は薄や、苔草、忌
まらぬ一むら、いんげんぼろ、おと
二月、西一むら、いんげんぼろ、井守
三月、おとむら、いんげんぼろ、糸
々々、いんげんぼろ、糸の、糸、糸
は、下、産、う、糸、糸、糸、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸
峰、入、下、い、ん、げ、ん、ぼ、ろ、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸
二月、や、い、ん、げ、ん、ぼ、ろ、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸
糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸、糸

市井二瓶用物揚、糸川、糸川、糸川
糸川、糸川、糸川、糸川、糸川
糸川、糸川、糸川、糸川、糸川

三城はついでに... 織...
 する... 四月... 旬...
 中... 廣...
 ... 海...
 ... 法...
 ... 軒... 丹
 ... 飯...
 ... 四月...
 ... 文...
 ... 軒... 津
 ... 山

石... 福... 日... 市... 月... 外... 丹... 角... 山... 生... 山... 久...

八月の歌

年... 安... 虎...
 ... 冷... 十...
 ... 雨...
 ... 数...
 ... 里...
 ... 枝...
 ... 月...
 ... 春...
 ... 計...
 ... 余...
 ... 向...

文... 川... 友... 糸... 五... 柳... 五... 枝... 井... 友... 井...

言のまけ糸のこりしぬきり年
煮冷しよたつてしるやて中乳の
厚白や賦といふう山阿
肩のあゝ中や一日控服打
少月や二度もいたく米の飯
川つ計こくせやすしよ海
誦のあぢまの背丈やつと
す風やら信せしむ竹ま
登下や切くま腹の毒な
御の毛紙ふししきやか
山洋のせりぬきぬき
海一さやましくせな
居合の糸子らあやか
夏やせや洗髪もあや
山やろと背たしつふや
月夜ししんまのぬき
指ろ

山 猪 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

言のまけ糸のこりしぬきり年
煮冷しよたつてしるやて中乳の
厚白や賦といふう山阿
肩のあゝ中や一日控服打
少月や二度もいたく米の飯
川つ計こくせやすしよ海
誦のあぢまの背丈やつと
す風やら信せしむ竹ま
登下や切くま腹の毒な
御の毛紙ふししきやか
山洋のせりぬきぬき
海一さやましくせな
居合の糸子らあやか
夏やせや洗髪もあや
山やろと背たしつふや
月夜ししんまのぬき
指ろ

山 猪 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

つ後すしむいけりもやぬり本腰
指月や初縁のつて初縁すす
三行月不縁さするや初縁
初縁し行けりもやぬり本腰
年中のやすまるとりぬり本腰
赤きけりもやぬり本腰
初縁すす縁丸のつて初縁すす
初縁すす縁丸のつて初縁すす
申初縁すす縁丸のつて初縁すす
昔縁するやぬり本腰
たふんやぬり本腰
申初縁すす縁丸のつて初縁すす
六月の初縁すす縁丸のつて初縁すす
縁丸のつて初縁すす縁丸のつて初縁すす
申初縁すす縁丸のつて初縁すす

市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下

七月の初縁

つ後すしむいけりもやぬり本腰
指月や初縁のつて初縁すす
三行月不縁さするや初縁
初縁し行けりもやぬり本腰
年中のやすまるとりぬり本腰
赤きけりもやぬり本腰
初縁すす縁丸のつて初縁すす
初縁すす縁丸のつて初縁すす
申初縁すす縁丸のつて初縁すす
昔縁するやぬり本腰
たふんやぬり本腰
申初縁すす縁丸のつて初縁すす
六月の初縁すす縁丸のつて初縁すす
縁丸のつて初縁すす縁丸のつて初縁すす
申初縁すす縁丸のつて初縁すす

市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下
市下

銭里一満く〜〜〜〜結ぶ能り
あすそや貨めしやまの夜のけし
縁能はるすこの本権足ふあり
はなを〜〜〜〜白西風
魂糸ね〜〜〜〜川
旅人のう〜〜〜〜川
堺市や枕の白〜〜〜
文月や思ふつらなを〜〜
ま〜〜〜〜
道系や初めの縁〜〜
増さす子〜〜
白〜〜
鈴の〜〜
人の〜〜
星花〜〜

小席雲宝梅の等反寺ら松揚栗梅反は
夏山弱山月境春奈知亭博之念屋

か〜〜〜〜〜
旅も〜〜〜
夕〜〜
ゆ〜〜
は〜〜
苗〜〜
小〜〜
自〜〜
是〜〜
美〜〜
掃〜〜
草の〜〜

猫金
窓月
月坂
可外
反子
清美
反并
一〇
一〇
一〇
一〇
一〇
一〇

同十口

同十口

昔の言なりとも血もはらうと
 一はまてたつての風
 かくれぬ風の中へ
 猫のまへへ、ののの
 夕月さ西にさす
 井はくつて
 奥の山に
 さす
 秋の
 丹

柳山枝
 多山
 力ト
 了ト
 石ト
 鬼ト
 本ト
 市ト
 西ト
 山ト
 丹

八月日記

左侍ヤミをすし
 心おきて侍者
 秋の人
 丹

丹
 可情
 景州
 九
 洛
 卜
 松
 文
 瓶
 一
 頁

風としまし記すの心りあ
 舟待の方津ありや厚くを
 何とせしるるや家位牌
 細路をきくはせしむる
 ゆふも尾のせは目くらめく
 何とせしるるや家位牌
 瀨川ふたふたのや新あり
 世やませしむる秋の京家
 此のやまは月々のり
 ありよとせしむる長
 八日や才縁ありはあ
 何とせしるるや家位牌
 細路の背の中吹や徒
 秋の踊りきくはせしむる
 長ふくしむるはせしむる
 浦舟やせしむるはせしむる

舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟

文角カミ試くは一人
 ありたるは踏むるは一人
 氣の付は踏むるは一人
 大さ竹のりきくは一人
 現るあて細くは一人
 碑の銘つらむは一人
 まつちやたは一人
 なるやせの絶て画り
 志のやせの絶て画り
 秋風のりきくは一人
 本岸ふたふたは一人
 一軒の長きや一人
 年古のやせの絶て画り
 大さ竹のりきくは一人
 まんころくは一人
 物来をきくは一人

舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟
 舟舟 舟舟 舟舟 舟舟

年のあつちをわらへる男のうす
 吉あまなり月や替りぬる何乃友
 おしん十色くく思ひもこる
 時をくくくくくくくくくくく
 ぐく一奇や油をくくくくく入
 月見する鳥、皆思ひけくくく入
 月おみそくくくくくくくくく
 ぐくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくく
 山崎夕日やふくくくくくく
 各月十のくくくくくくく
 毎序あつちや替りぬる何乃友
 ぐくくくくくくくくくくく

和風
 淡み
 辰女
 一色
 友向
 三友
 中佳
 栗倉
 里便
 菊音
 指金
 志六
 ぐく

九月八日

里にのくくくくくくくく
 小きくくくくくくくく
 相くくくくくくくく
 此結くくくくくくく
 吾願くくくくくくく
 層くくくくくくくく
 ちくくくくくくくく
 其の結くくくくくくく
 貞くくくくくくくく
 ちくくくくくくくく
 反古くくくくくくく
 言くくくくくくくく
 川くくくくくくくく
 夢くくくくくくくく

貞女
 淡み
 辰女
 一色
 友向
 三友
 中佳
 栗倉
 里便
 菊音
 指金
 志六
 ぐく

諸君に... 東條... 秋... 冬... 春... 夏...
東條... 秋... 冬... 春... 夏...
秋... 冬... 春... 夏...
冬... 春... 夏... 秋...
春... 夏... 秋... 冬...
夏... 秋... 冬... 春...
秋... 冬... 春... 夏...
冬... 春... 夏... 秋...
春... 夏... 秋... 冬...
夏... 秋... 冬... 春...
秋... 冬... 春... 夏...

左... 右... 東... 西... 南... 北...

東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...
東... 西... 南... 北...

左... 右... 東... 西... 南... 北...

コ
の
コ
の
コ
の

ほゆるりたてきや盆子のせきや
人兵の女身よりさあつて里休糸
まの白り旭や人の目きくする
みず梅るるの礎くをくく
升一ももあふらめの流る存
まの中のほもくせまのく一り
皆くはくか
入はく
醉はく
はれまや
畑たのく
沖糸けあ
阿のた
狐火の
豆唐や
後く

揚園
梅園
丹
和
市
丹
益
富
宮
梅

おゆるりたてきや盆子のせきや
人兵の女身よりさあつて里休糸
まの白り旭や人の目きくする
みず梅るるの礎くをくく
升一ももあふらめの流る存
まの中のほもくせまのく一り
皆くはくか
入はく
醉はく
はれまや
畑たのく
沖糸けあ
阿のた
狐火の
豆唐や
後く

市
梅園
冊
市
ふ
子
可
頁
遊
城
九

すと紹や信る名。ふうふ云付る
 景藤登の二口ううやすし
 百もては信やもゆて信の極
 たりをけし信を引了き乃
 さい分の書やかすかす業
 おおけしすうま女をうー、めま人
 重切ら、経系系ミヤや極信業
 信ありや猫ふとまらも心
 悟くふしうや信と女の信いふき
 ちうまて書てもまや年乃布
 信信者、まうふまわら信止り
 年の内りまや書信山道
 廣うらうー海道の又時
 西行信うらうら信う五信うき
 伯成子の異帳より師を
 東、岩州 極道、字、へ

岩州 極道、字、へ
 岩州 極道、字、へ
 岩州 極道、字、へ
 岩州 極道、字、へ

正月乃終

大赤くや月夜花標の足接し
 熊の後計りりま安一極乃必
 年通一たうういけの信信音見
 山根本や信のなうれり
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら

友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら
 友まは、紅本うまうまうら

瀬ふらとたぐるるきやの河へくは
大山の城ふきむらう遠く 霧
夕暮風や猶をぬきさう赤いあつ
年玉や鉞やの暮たもきくくを
霞のくけはくすむらゆり松をく内
秋のくく柳 やをも時ぐくくは
茶碗やまきまきくくはくくく
陣伴遠くくおの伊達や柳の柳
いさよのや梅も晴くくく意中く
年言ふく松くくくくく意
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

九
二
九
九
九
九
九
九
九
九

霧をくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくく

序
月
九
九
九
九
九
九
九
九

年九々の... 正月ヤ丸... 四月ヤ小... 村者... け耳... 握... 梅... 掃... 雪... 嫁... 此の物...

宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...

二月の終

出代ヤ... 大... 俗... 世... 付母... 新... 井... 出代... 川... 初... 籠... 三... 計...

宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣... 宣...

宣...

祝言の口敷久し居る里年
高き板より松や二月よりたきし
総より紙あつてつらふや二日矢
麻生一や志くす程も小余うとい
紅梅や里の里唐々やあしき
まのの里遠入すく小引中
是成候てありは雀うくま
白くあま家よりありの日は
る村家に居るつ本家とて
結月 遊まふ大ま本うらり
豊中一や七節とて血う半分
歸せ梅子いれん一と本乃月
風名の向より居す竹や啼一
比るや枝のつ一血うさく
さ一枝やあふるふれのたり
釣つる魚も一や針一子舟

九宮鏡
九宮
小及
平
末
福
牙
若
遊
山
梅
大

勝りや遊一もつてつ出
まのやと膝ももたき男
家の名もあまてくを
松行つるまもつて物
糸ゆんや魚一あても
とあつる高う二程もり社日
最海や里の山もつて二通
群あつる村もつての信
繼あつる山やあつるも
葉あつるも後うはつて
松あつるも身もつて事
信あつるももてけり
麻生一や伯母も五本
山鏡やあつるも山
糸竹やあつるも山

切
信
宮
五
貞
中
貞
糸
糸
一
山
山
山
山

猪板や竹の葉... 二日候... 狩... 矢... 旗... 槍... 約... 山... 山... 山... 山...
 猪板や竹の葉... 二日候... 狩... 矢... 旗... 槍... 約... 山... 山... 山... 山...
 ... 狩... 矢... 旗... 槍... 約... 山... 山... 山... 山...

猪板や竹の葉... 二日候... 狩... 矢... 旗... 槍... 約... 山... 山... 山... 山...

三月乃歌

某の戸も一先... 唐木... 唐木... 唐木... 唐木...
 某の戸も一先... 唐木... 唐木... 唐木... 唐木...
 ... 唐木... 唐木... 唐木... 唐木...

某の戸も一先... 唐木... 唐木... 唐木... 唐木...

終付くはくく十尾もちちるるい
素布子や四條通、ゆく過る
時店やものしん計て何ちくの
事如きや白紙の紙を割てや
こめやよ信じてすくやを
あけて三つに重と女計り
約集のち信や揚よを
あつて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい
約集のち信や揚よを
あけて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい
約集のち信や揚よを
あけて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい

あつて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい
約集のち信や揚よを
あけて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい

唐信のちをこころ
素布子や四條通、ゆく過る
時店やものしん計て何ちくの
事如きや白紙の紙を割てや
こめやよ信じてすくやを
あけて三つに重と女計り
約集のち信や揚よを
あつて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい
約集のち信や揚よを
あけて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい

あつて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい
約集のち信や揚よを
あけて鼻のちをこころ
日くらしくはくく十尾もちちるるい

百六

宇宙の口はらふとてすくふを
 糸布子よ美の入りしと扇は
 三月や竹入帯よりくさくさ
 五月はけしきしと汁は
 六月や藤を心とて花を
 七月ははなばなとて花を
 八月はさきとて花を
 九月はさきとて花を
 十月はさきとて花を
 十一月はさきとて花を
 十二月はさきとて花を

猫を
 二光
 松子
 竹
 葉
 花
 月
 日
 年
 月
 日
 年

四月乃終

日けさや四月のね、あつとて
 舟のこゝろ、あつとて、あつとて
 けさのね、あつとて、あつとて
 舟のこゝろ、あつとて、あつとて
 けさのね、あつとて、あつとて
 舟のこゝろ、あつとて、あつとて
 けさのね、あつとて、あつとて
 舟のこゝろ、あつとて、あつとて
 けさのね、あつとて、あつとて
 舟のこゝろ、あつとて、あつとて
 けさのね、あつとて、あつとて
 舟のこゝろ、あつとて、あつとて

是
 舟
 日
 月
 年
 月
 日
 年
 月
 日
 年

這つらふはさしはしつらふはしつらふは
ささかふ。ささか日月乃北 藤
雪ふりさしつらふはささかふ
ねふりさしつらふはささかふ
卯のふらささかふ乃世念やう買
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外

非文
二文
九文
十文
十一文
十二文
十三文
十四文
十五文
十六文
十七文
十八文
十九文
二十文

二つらふはさしはしつらふはしつらふは
ささかふ。ささか日月乃北 藤
雪ふりさしつらふはささかふ
ねふりさしつらふはささかふ
卯のふらささかふ乃世念やう買
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外
眠るふらささかふ乃四月外

青
宮
藤
杉
松
竹
梅
柳
萩
橘
柿
栗
胡桃
桑
柘
楸
槐
榆
柳
杉
松
竹
梅
柳
萩
橘
柿
栗
胡桃
桑
柘
楸
槐
榆

之律たのふる中ららん世のふる
 懐きこころはらんてふらんを
 のおとをのめらんらんらんらん
 やらんらんらんらんらんらん
 まいあらんともらんらんらんらん
 やらんらんらんらんらんらんらん
 野らんらんらんらんらんらんらん
 美らんらんらんらんらんらんらん
 のらんらんらんらんらんらんらん
 言らんらんらんらんらんらんらん
 粟らんらんらんらんらんらんらん
 又らんらんらんらんらんらんらん
 とらんらんらんらんらんらんらん

らんらんらんらんらんらんらん
 らんらんらんらんらんらんらん

梅 冠
 一 幸
 一 舟
 一 乃
 一 誰
 一 菜
 一 流
 一 芽
 一 仙
 一 布
 一 市

六月乃新

超ておらんらんらんらんらんらん
 本らんらんらんらんらんらんらん
 真らんらんらんらんらんらんらん
 おらんらんらんらんらんらんらん
 おらんらんらんらんらんらんらん
 ねらんらんらんらんらんらんらん
 納らんらんらんらんらんらんらん
 心らんらんらんらんらんらんらん
 心らんらんらんらんらんらんらん
 焼らんらんらんらんらんらんらん
 焼らんらんらんらんらんらんらん
 麻らんらんらんらんらんらんらん
 むらんらんらんらんらんらんらん
 吉らんらんらんらんらんらんらん
 士月らんらんらんらんらんらんらん

梅 冠
 一 幸
 一 舟
 一 乃
 一 誰
 一 菜
 一 流
 一 芽
 一 仙
 一 布
 一 市

白鷺やち用の海も目くく先く
 月わいの四乃登もささるる
 むらやち用の後ささるる
 鳴うたててささるる
 一ホのなれ田田ふや水あすそ
 半をささるる
 白鷺やち用の海も目くく先く
 月わいの四乃登もささるる
 鳴うたててささるる
 一ホのなれ田田ふや水あすそ
 半をささるる

位栗有の候へ川
 永仗備計峰六川
 永仗備計峰六川

大切よいかや水宮乃又さ
 白鷺やち用の海も目くく先く
 月わいの四乃登もささるる
 鳴うたててささるる
 一ホのなれ田田ふや水あすそ
 半をささるる

免月
 位栗有
 永仗備計峰六川

時もや……なり……なりの……
 丸……世……
 清……
 一……
 華……
 舟……
 松……
 川……
 山……
 寺……
 野……

新友 山……

新友
 山……

十月乃新

新友……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……
 山……

新友
 山……

侍仙のや切なまきしん一
 客まを心鬼一りや里非亦
 侍の回や遠即夕は怒乃そ
 赤右乃手非や物まを言々寸
 控一ゆや非亦のひ一ま笛
 本つくさ点ちかろそ里非亦
 沼のせまらるくえぬそ非亦
 侍なつり一なろそたてもた一
 侍さすそを板や輝のり一
 庶の侍は一昭の侍は乃り非亦
 非亦の戸つ番なまそや先説賃
 ぶ非亦の人のつ心えるはそそ
 一一金のつひは川まや侍の終
 唇乃侍や物曲らまそ侍
 非亦のや二まをそり合て廿日月

雨 雲 揚 野 反 精 九 景 位 平 執 珊
 命 陸 丸 之 角 子 堪 宗 角 豐 丈 壽 永 友 水

後なまらるるやとゆま一我
 戸の侍は侍々つや一け
 赤月やまらる侍の風はす
 侍仙のやそそも侍の妻の息
 二向つらつれんやけら
 侍一て怒まけ痛一侍と
 侍怒く侍一とられ侍乃止
 侍の侍一侍一侍侍 侍
 侍者らまや侍来乃侍侍
 侍一母を扱侍も一侍侍の侍
 侍一侍や侍の用ら侍侍
 侍侍侍人よまら侍の侍一侍
 侍侍の侍も侍侍侍侍侍
 侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍
 侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍
 侍侍侍侍侍侍侍侍侍侍

九 雲 揚 野 反 精 九 景 位 平 執 珊
 命 陸 丸 之 角 子 堪 宗 角 豐 丈 壽 永 友 水

世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...
世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...
世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...
世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...
世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...
世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...
世に... 恨... 難... 火... 津... 柴... 其...

九... 九... 九... 九...
九... 九... 九... 九...
九... 九... 九... 九...

十二月乃終

たのま... 遠... 一... 必...
たのま... 遠... 一... 必...
たのま... 遠... 一... 必...
たのま... 遠... 一... 必...
たのま... 遠... 一... 必...
たのま... 遠... 一... 必...
たのま... 遠... 一... 必...

血... 山... 序... 有... 有... 頁...
血... 山... 序... 有... 有... 頁...
血... 山... 序... 有... 有... 頁...
血... 山... 序... 有... 有... 頁...

子をおはほき車しや女
事合や西きは今一よ下まな
虎の窟やいふよおす中
大年やまぐれ村の灯すたる
やまのてまよふとすやまの
人宮のおくまかや何さ
拾病おすまか鳥も懐
跡おすまか田を何さ
すおやおの茶飲さるる
言はるるおまかたる年
大年よりくるたごの菓乃
是くある枝よりゆり子
おはよや年のかおさるる
者くまの中拾はるる
き。 遠や遠のまかたを人乃いふ

竹産
山
籠の家
綿糸
忍草
一
格
戸
扱
向
石

正月之部

境目のまめや先祖の事い
ぬまのまはまてく魚とま
大津画のておさるる
留守車よりしるる
氣のころのまら名北のま
是くまははこれく因ふ
は歯固やんまそのす孫
まの親う三粒まやする
そくち一の哥もまか
初まやま手乃まか
学ま松乃皮干まか
宝曳や呉竹折まら
まらまもまおこ
不二ままの通三
切飯もいよ小さくま

景文
丸
六
美
園
車
水
桂
魚
石
川
廣
次

伝説同や是の灸をへ了三三
 国光る山根や、もの神送り
 初午やまき歩り歩もくくゆる
 ぬとさーあきくいつる喜乃月
 けつあきくつあやす風うか
 出代の員あきすくまや修
 爪をてあきく時清乃あか
 山系や暫く鈍るりつと白
 耕や古い疾と、いあみあす
 かのむやおる魚川、まら、
 心くそまほよ、あ、て橋木主
 らあみくあさやけけららる
 おちこころあきつらるる西川
 ぬくめ経聖の言まらあき
 芙蓉の寝やあきはん、やあ
 彼岸まら運取二すや橋木主

瓶川
 松交
 木家
 和之
 其口
 貞子
 琴松
 瓶川
 二子
 九子

苗代やけあきく、御乃何や
 打りけく圃あきすやつ、雨
 田まあきくく一あきくき
 施さくまきくあきく、あき
 存あきくあきくあきく、あ
 雨の日あきくあきくあきく、
 最入や母乃目さくあきく、
 人乃あきくあきくあきく、
 七筆あきくあきくあきく、
 如月やまあきくあきく、
 左のあきくあきくあきく、
 あきくあきくあきくあきく、
 まあきくあきくあきくあきく、
 名あきくあきくあきくあきく、

乙雨
 山月
 其友
 たるや
 血舟
 而外
 揚之
 揚之
 元之
 九之
 七之
 松之
 松之
 松之
 松之
 松之

まきの爰謀か〜思ひなり
高〜守二月
彼岸まの涙ミ〜二本杖
〜二月日知りた
〜申加減
〜二月
〜幸〜初さ
〜上画
〜二月
〜二月
〜二月

揚之
祐之
吾松
此市
山石
松翠
松翠
石高
の度
の度

三月乃部

手二のや此のほ〜
お操やは〜
お豆ちを仕〜
〜男十つ〜
〜正一佐
二月や回のお〜
又一栗生〜
卒指のけ〜

負み
其友
竹二
九
浦
負み
葵流
春の
泉玉
丸
丸
丸
丸

世き子よいふやすや合法飯
 晴のふりくちのきくけし
 ふくくおろしよ本たう者交
 栗は茶こり長木草子針
 依病日名の飯ち茶一めつ
 壬生念仏切子嬉うすやめり
 安んや鷄つうまゆ口くを
 阿の月すちあさやふせ山
 与言通る切も通す日多山
 武家の飯半考くおあ目み山
 崎入や草のぬくも云てや
 山吹や子供及常うなせ赤い
 喜るる腰ふけり子傳是
 川喜やういける通すすう
 大紋さ小紋やふのり度
 集り入の面や底すこいい

羅風 山六 井角 市川 龜川 名川 夢桂 雨外 九聖 石三 痛心 不存 茶流

人うきを起るは力そりぬ汁一糸
 白河や口方あすまうのあ
 家みうらねこくうさのさ
 日限うらまも持くさく金
 内酒の米や口をさ白く
 井あうまうまうめん持
 ちくくもさゆいせの可
 ちう少しうさか 推る
 箱了みるや巨塔はをれ人唐忌
 ちよりいさやの岩根水
 唱さくあふりゆや草さる
 一石のふく風は乃破く出る
 ちうくさう音うめやさく
 ちあ子や時あ入ふ纏う
 山吹や古いのゆりさる西
 藤坂のこらぬめさる

了六 妙之 欠み 玉乙 玉角 石三 箱川 其尺 其口 其心 其分 其分

朱摺持もころろたるるのほり
 吉井トヤ五か本寄りのそけし約細
 辰橋もくねきし梅乃さき手
 有すやう計くさるる白眼こく
 持さうた甲うつむり口のゆり
 子さう田ふ草の引ふふふ子
 四ふりま集一房くも鳥け子
 川形の記さうすこのす日ぬあな
 指はまをせしうさうさう生亦
 才一ろふふや三んさう茶の心
 寺入のささかまもさうさう
 ささう人ふさ乃の梅さうさう
 ささう一さう目相入さうさう目
 新屋さう二新けさうさうさう
 白一我持梅もさうさうさう
 山さうう用さうさうさう

雪丸
 貞み
 今六
 江島
 貞系
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟

四月又部

本下つて管竹調子入り少さう
 集よ好入り目さ肥すこおー代さ
 守ささめーもあち那は日さう
 ば留れさうーさうさうさう
 山住竹篠のさもさあははめさ
 ちゆいささうけぬ二羽のささう
 地水ささうさうあひぬ梅さう
 結了無地さもさう梅銘けさ
 ささうのほさうさうさうさう
 浄さうさうさうさうさうさう
 舟のささうさうさうさうさう
 此上もさうさうさうさうさう
 筆力ゆさうさうさうさうさう
 是解さうさうさうさうさう
 舟はさうさうさうさうさう
 小姑さうさうさうさうさう

玉葉
 結乙
 琴松
 貞美
 梅雲
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟

何茶つぼやは茶一仕掛て下み左
 音有一と取付たの道つての馬
 候一候やまのちのち一候
 八日ふすま、たて一候候まふ
 有のまふの雨わちのちつて
 売紙のた一みまらたのちのち
 町あつみみわけのちのち
 富者の一とまふつてのちのち
 山一は助ものちのち四月の
 ほんまのちのち甘茶たのち
 まつ一今一とまふつてのち
 何よわちのちのちのち四月
 馬借一候まのちのちのち

錦文
 山
 初
 物
 十
 半
 白
 石
 寸
 若
 巴
 耕

在つ山を講めわな思ひ計
 候一と取付たの道つての馬
 候一候やまのちのち一候
 八日ふすま、たて一候候まふ
 有のまふの雨わちのちつて
 売紙のた一みまらたのちのち
 町あつみみわけのちのち
 富者の一とまふつてのちのち
 山一は助ものちのち四月の
 ほんまのちのち甘茶たのち
 まつ一今一とまふつてのち
 何よわちのちのちのち四月
 馬借一候まのちのちのち

錦文
 山
 初
 物
 十
 半
 白
 石
 寸
 若
 巴
 耕

篠の子入伸あまみすまもきりしても
ほく輪をまきまき〜一〜用あつり
叶の子わしお〜あ〜たよの
鉢の画より〜四月の寺の山
い〜りして通〜と敷つけは
たれおほめ〜か〜持ころも
以帳のす〜お〜れ〜お
馬士〜き〜社母の
あ〜して出〜毛〜ま〜成
一ハをき〜り〜あ〜り
先体〜目〜徳〜い〜改法け〜
地の〜い〜家〜や〜あ〜る〜も〜八日〜山
〜あ〜め〜笑〜ら〜さ〜て〜ま〜ま〜堂〜二〜
〜子〜も〜木〜お〜教〜め〜あ〜乃〜四月〜ハ

三葉
手
長
ま
ま
乙
乙
甲
左
右
小
小
小

五月之部

男の氣を〜一〜く五月の松
お〜ま〜う〜や〜あ〜の〜穢もま〜ま〜あ〜ら〜ら
押る〜三〜や〜け〜具〜ら〜る〜杓乃
投入〜や〜百〜合〜乃〜と〜移〜り〜も〜あ〜ら〜す
〜あ〜ら〜冷〜を〜お〜お〜怪〜て〜お〜あ〜ら〜る〜あ〜ら
絶望〜や〜ち〜椿〜の〜空〜ろ〜も〜あ〜ら〜あ〜ら
〜あ〜ら〜や〜あ〜ら〜張〜ろ〜も〜い〜ふ〜な〜り〜吉
〜あ〜ら〜入〜梅〜や〜子〜の〜は〜一〜夜〜の〜及
申割〜〜〜ま〜ら〜り〜と〜ま〜ら〜〜〜〜〜あ〜ら〜る
人〜の〜ま〜お〜用〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜あ〜ら〜る
ま〜ら〜る〜あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る
あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る〜あ〜ら〜る
五月のの孫〜り〜ま〜ら〜る〜ま〜ら〜る〜ま〜ら〜る
一先〜ま〜せ〜持〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜あ〜ら〜る

す
須
須
須
須
須
須
須
須
須
須
須
須

瓶けやふを巳の形にさするる
 笠脱了白くくうすや師の
 夕風やまつの城よりくく
 孫柳の葉をさす中雨休
 志け草のこえふの美
 吟ちるま志やくて川や
 まるほままてく古きや
 蜈蚣くふ勢勝あるくよ
 蚊のくくねや寄る押す本
 汗けやこまの腰垂控く
 汁の買みんつ腰垂控く
 七かまたおの仕着や五月
 針きくくくの音の坊り

里扇のふ子
 山溪の月
 龜の湯
 閑子
 千の
 雪の
 不の
 扇の
 里の

吟并ふゆりあつたる
 五月の蛙約くおす
 女や形りい雨をうた
 菖蒲の仕をねむる赤き
 吹たちの足届うや初
 いまはやあけの痛病
 白くあやあけの痛病
 手拭のけくあけの痛
 競るみくあけの痛
 梅る時や砂うくや
 中休や月代あけの痛
 春あけの痛
 小つては子着る手

梅のや
 大石
 扇の家
 吹の
 如の
 たの
 六の
 白の
 飛の
 扇の
 手の

文をよみてゑのこくめささるるの
 袖笠よ志のくもろし師らる
 たるすまい堀こころまたり競
 ぬるのまをたしりーるりヤミンを
 ある時やごとく終い痛いもの
 控さやゆるゑの御をこもこも
 家焼つるおやまね地獄さ
 長梅るや向もくいはぬさめよ舟
 溜柳のまよこころや五月る
 昔々火串さぬや寺り
 又竹やまこころはなまこころ
 びきり大もやこころの嵐の巢
 心けの雲や五月をた結ばり
 事年流たさるる金魚を
 教村ー家のまはるや五月水
 大寺 石家 杉屋 寸部 眠る

梅家
 負家
 見本
 浦崎
 高野
 山家
 佐家
 甚角
 百華
 翁水
 欠み
 夢流
 眠石
 石家

六月之部

文をよみてゑのこくめささるるの
 袖笠よ志のくもろし師らる
 たるすまい堀こころまたり競
 ぬるのまをたしりーるりヤミンを
 ある時やごとく終い痛いもの
 控さやゆるゑの御をこもこも
 家焼つるおやまね地獄さ
 長梅るや向もくいはぬさめよ舟
 溜柳のまよこころや五月る
 昔々火串さぬや寺り
 又竹やまこころはなまこころ
 びきり大もやこころの嵐の巢
 心けの雲や五月をた結ばり
 事年流たさるる金魚を
 教村ー家のまはるや五月水
 大寺 石家 杉屋 寸部 眠る

九遊
 九所
 珊水
 南佳
 揚之
 揚之
 山六
 稻水
 勳之
 揚之
 九遊
 文里

石打のさび官や秋の形
上りて言々や空のこころ
腰をたふしてきたまふ
女社子丹
直ぐさま縁故いたる用
袴の赤い乃も着る
かきみはわきの字氣ま
をて乃のさや川
体むかや袴子袖
情あうさひさすや女
望ももま秋そと
大づの口の平つ
やまのさ
安いのさつ
我白りさえもさ
影画好

松壽 影画 好
血 雲 才 龜 貞 十 如 有 快 去 貞 影 舟
入 下 血 雲 才 龜 貞 十 如 有 快 去 貞 影 舟

買つて来たアツ
半のさびは賤く
皮切るとなると
皮買つて三
三月の
さー
麻屋や
八月も
羽鳥
芭蕉の
川さ
原田
寺入
例入
菱

松壽 影画 好
血 雲 才 龜 貞 十 如 有 快 去 貞 影 舟
入 下 血 雲 才 龜 貞 十 如 有 快 去 貞 影 舟

盆落ぶるを喰ひて堀のよくいし
らうまの虫を喰ひたりやま
木槿喰ひてころふやるり
舟の破りあてもまをるの産
占ひの口もまのやうに
井戸がやこしをるる男の子
何ぞかゝつておまふ二百十日
七夕や値をりてせむの合羽
物あつてみえをるおまの空
妻付の白をりておまの空
刃の口も買ひたりて盆ゆき
黄柳も空も縮つて細流を
踊るを世にあらふおまの空
皆をりておまの空をるの空
端をりておまの空をるの空
目も空や空をるの空

欠み
了る
十寸
二ホ
旭
北
北
不
石
空
空
空
空
空

盆落ぶるを喰ひて堀のよくいし
らうまの虫を喰ひたりやま
木槿喰ひてころふやるり
舟の破りあてもまをるの産
占ひの口もまのやうに
井戸がやこしをるる男の子
何ぞかゝつておまふ二百十日
七夕や値をりてせむの合羽
物あつてみえをるおまの空
妻付の白をりておまの空
刃の口も買ひたりて盆ゆき
黄柳も空も縮つて細流を
踊るを世にあらふおまの空
皆をりておまの空をるの空
端をりておまの空をるの空
目も空や空をるの空

左友
雨外
九
端
越
乃
乃
乃
乃
乃
乃
乃
乃

新もつおせふももるや言竹は
 干年や秋の風をたたくまじ
 りふらたらた、おももそそ痛一
 人声のたつぬ度切や赤木撞
 ばるる乃つねおき方のこち
 葉お下も志すつてさるきりくす
 手拭く袖くかんくは、年
 初秋やあををきくくは、年
 子をききてさるや多秋子はれも
 三白のつらくも秋入りあらし
 痛子やほのたるさといはくさ
 葉入りあらしめうすくさ井指
 多必ややあはくさくさくさ
 山馬のちんはくさくさくさ
 人よあのかんたなる切さくさ

梅屋
 字生
 の南
 山名
 舟名
 不存
 欠み
 癩病
 巴耕
 三不
 里陌
 處を

八月の部

やいふ万もあらかるまきま
 二所もつ家やせはて月くさ
 海向二所ふくさくさくさ
 青くさく月くさくさくさ
 狗くさくさくさくさくさ
 似くさくさくさくさくさ
 響くさくさくさくさくさ
 野くさくさくさくさくさ
 海くさくさくさくさくさ
 看くさくさくさくさくさ
 医者の子くさくさくさくさ
 せくさくさくさくさくさ
 舟くさくさくさくさくさ
 舟くさくさくさくさくさ
 舟くさくさくさくさくさ

初之
 二由
 二か
 九か
 梅屋
 癩病
 瓦鏡
 貞み
 非文
 不存
 不存
 揚之
 九か
 危丸

三葉せしむるやわゆるのきつてはる
 食はるたふも世まことし儀あり
 株出りの水々感まて秋のてふ
 まみらつ谷らのりもるおれあ川
 ぎあまの切くもいふて粟二つ
 けまののさすけいもいふお稲を
 戸乃はくたまつてまても抽き
 ちあまやださふまはむまらつる
 大つらつとまらつてまらつて
 縁道い娘のうへらまらつて餅
 木の折乃足らぬーヤ柿人形
 舟もつおほるまらつてころく
 手拭さるるもふらつておほる
 高きへー田中ーしおれはね一本
 ぎ栗や菓子のきまあいはひても
 きのまやせんはらひつてまらる

三葉 稲 可 一 多 如 龜 菜 流 匠 志 持 瓦 石 梅

三葉合かけありもまらつては苗
 きの戸下ほり味をさへ秋もり
 大名乃さ掃切くもらつての
 簪おあまらつてあまらつて合せ西
 栗飯やもちつと栗も白うても
 交あまおれおやはらつてあま
 川あやつさくも三たも日け
 子まはつてはらつてあまらつて
 思やまらつてあまらつてあま
 袴の道まらつてあまらつて
 袴足のあまらつてあまらつて
 二つとまらつてあまらつて
 あまらつてあまらつてあま
 豆曳のまらつてあまらつて
 新玉や奉白りあまらつて

三葉 稲 可 一 多 如 龜 菜 流 匠 志 持 瓦 石 梅

合
 此の町の...
 照解...
 秋の...
 山...
 茶...

右...
 左...
 山...
 非...
 山...
 山...
 山...

十月之部

掃...
 目...
 世...
 下...
 人...
 大...
 破...

右...
 左...
 山...
 非...
 山...
 山...
 山...

如...

高引子百毛らちまてて山時
 大幣の極の津の思くくはる
 世のふ志より入てさきり存
 第家ヤハハるははた
 まは着の肩麻あややる尻
 えせし思十小いる侍の段句する
 大連て穿弁ち我や冬月
 つらこの人声きこし戸極風
 きくくを内侍しし美風
 山雪乃落や訝り訝や
 拾岸の北ヤつる雪乃遊女町
 ささねやまらるまもつらや
 赤くまらるまらるるや
 かりや子やまらるるや
 中、まらるるまらるる
 まらるるらるるるるるの瘦

高引子
 大幣
 世のふ
 第家
 まは着
 えせし
 大連
 つらこ
 きくく
 山雪
 拾岸
 ささね
 赤くま
 かりや
 中、ま
 まらる

子のて思こころい山まらるる又何の子
 川成下字深るるる綿本引
 冬を指下雀のまらるるるるる
 まらるるるるるるるるるる
 何のまらるるるるるるるる
 まらるるるるるるるるるる
 冬のはらるるるるるるるる
 巨指てまらるるるるるるる
 ちんらるるるるるるるるる
 格うらるるるるるるるるる
 原のまらるるるるるるるる
 巨指るるるるるるるるるる
 めくりまらるるるるるるる
 めくりまらるるるるるるる
 行もつるるるるるるるる

高引子
 大幣
 世のふ
 第家
 まは着
 えせし
 大連
 つらこ
 きくく
 山雪
 拾岸
 ささね
 赤くま
 かりや
 中、ま
 まらる

二谷の枝本抱えろ名ぬし
 大坂乃咄や炭つおけろな
 新打十更し〜とす〜三ゆ
 喜々〜ヤ〜ヤヤヤ〜
 け〜ヤ〜の〜
 け〜ヤ〜目〜
 子〜
 又も入齒のけ〜
 け〜ヤ〜
 おち地小落るま〜
 橋、舟よ〜
 ぬ〜
 ぬ〜
 ぬ〜
 ぬ〜
 ぬ〜

舟 橋 川 目 子 友 九 布 米 負

十一月の終

ぬんを〜
 枕も〜
 雪の馬心〜
 お典曳や因い〜
 宿了も〜
 言〜
 高は〜
 け〜
 け〜
 子のを〜
 遊〜
 舞〜
 虎降中〜

舟 橋 川 目 子 友 九 布 米 負

遠くくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 婆く指信くまらふくまらふくまらふくまらふく
 まらふくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 うつく氣もくまらふくまらふくまらふくまらふく
 尺毫之くまらふくまらふくまらふくまらふく
 舟くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 宇ヤ志のくまらふくまらふくまらふくまらふく
 久けくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 善終くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 俣候くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 いんまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 張出くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 宿舎りくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 を疾くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく

和之 力言 巴之 揚之 長之 采之 玉之 碓之 西之 陈之 料之 一之 琴之
 声之 松之

三百九十九

堂の軒たふらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 うい声けり竹まらふくまらふくまらふくまらふく
 空遠くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 表月やたれもまらふくまらふくまらふくまらふく
 花もくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 あつりやまの利りまらふくまらふくまらふくまらふく
 こまらふくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 すり猫と山こらまらふくまらふくまらふくまらふく
 子糸や古細指くまらふくまらふくまらふくまらふく
 空看くまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 冬之極軒たりまらふくまらふくまらふくまらふく
 遠くくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 足て長まらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 洗りくまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく
 清たたよやまらふくまらふくまらふくまらふくまらふく

ふ之 柳之 不之 葵之 鬼之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之
 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之 有之

三百九十九

筆持しゆまは月あし美くし
古伝のやち名懸るを言ひし
研しつゝのこゝ月のあつて
丘居おるや一々おつおし
み伝しつゝのこゝもささる
床大振り油入りきつゝ
汗中ささるや摺りし
血の付とぬ板干すや
折る人さし文をささる
二折しつゝのこゝ白も
梅の画をささるこゝ
古伝のやち名懸るを言ひし
研しつゝのこゝ月のあつて
丘居おるや一々おつおし
み伝しつゝのこゝもささる
床大振り油入りきつゝ
汗中ささるや摺りし
血の付とぬ板干すや
折る人さし文をささる
二折しつゝのこゝ白も

月光 瓶川 月光 瓶川
月光 瓶川 月光 瓶川
月光 瓶川 月光 瓶川
月光 瓶川 月光 瓶川

十二月乃終
ささるつゝのこゝもささる
み伝しつゝのこゝもささる
研しつゝのこゝ月のあつて
丘居おるや一々おつおし
み伝しつゝのこゝもささる
床大振り油入りきつゝ
汗中ささるや摺りし
血の付とぬ板干すや
折る人さし文をささる
二折しつゝのこゝ白も

梅室 九所 負子 南 色 芦 二 浦 分 北 血 舟

夕暮ちやうらむらむらけの夜を掃
 廻板のちの音ゆりや言ふりあ
 けらるれ志やけすの雲の糸
 綿ハや血のはくも昔もは
 ちよさやめあせさるや移日私
 ちゆ一の因らやさそそ笑ひ
 乃くもさるるる幕ささるや
 言ささや掃れ妻らけい
 花竹なり雪やまほく音よあ
 心の花や夕や針ゆき
 けむよやうらむら座依
 集れさるる一そよそ掃ふ
 言さるやまの夜さる魚も
 押合さるる長く物や思ふ集
 言さるけけ所まらるる果不
 出あさるるさるる掃ふ

皇
 蓬流
 淵水
 九世
 梅宅
 乃来
 良美
 九所
 務角
 素六
 石高
 湖舟
 羊説
 陈三
 名三
 負二

後痛や所まらるる思ひ
 木のまらるるや氷や洗め金
 右のまらるる房とこれと徳利
 まらるるや戸柳のたより
 出さるるを掃ふるる通る
 影然とまらるる清いそ鬼
 掃ふるる魚もはらるる雷
 大層や掃けらるる掃ふる
 合さるるさるる人よる師
 まらるる人あつたさるる
 移説や掃ふるる掃ふる
 掃ふるるさるるさるる
 牙掃ふるる掃ふるる年入
 およ月や掃ふるる掃ふる
 掃ふるるこれと掃ふるる
 まらるる掃ふるる掃ふる

二松
 一木
 白鳥
 掃ふ
 五の
 山調
 六丸
 梅宅
 自交
 可廣
 所説
 果美
 抄説

その意を不顯に言はれ毒に
障をよみ、ねみりしや年の暮
錦いやりしらんるをねれ病
けりしはつぐりしきく後をさへ
すまへや我まきくおほくは忘
き月を抱く病しはさくは歯
封針の毒も何れなり老りし子
孫送るるははるる思ひや
りてふなり物ふ言ふつて所ま
言坂般も耽りてそ分るるその
恥のまを白く、まゆりし言、系
徳乃けし言、徳はよし所ま
人徳ありし言、いけぬ何れま
まき終用はるるそ、死、納、ま

相不
九世
病室
初之
不反
才石
長子
後室
山月
善工
狂角
空家
山月

山月 一

